

調査について

1. 日本における中長期在留外国人の移動過程に関する縦断調査とは？

本調査は（独）学術振興会科学研究費助成（科研費）（JSPS21H00788）の支援を受けて、国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長の是川夕によって、令和3年度から5か年の研究プロジェクトとして行われるものです。なお、移動過程とは外国人の来日後の動向を意味する概念で、就学、就労、結婚、出産、そして帰国など一連のプロセスを指す言葉です。

2. 調査の目的

現在、日本では中長期在留外国人が急増していますが、その多くが日本語学校や大学など、各種学校への留学生として来日するところから日本での生活を始めていると考えられます。そのため、日本語学校や日本の大学等に在籍する留学生を継続的に調査することで、日本における中長期在留外国人の受け入れの実態について明らかにすることが可能になると考えられます。

3. 調査の対象

日本への留学生、及び元留学生

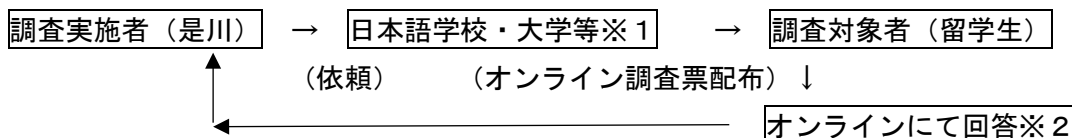
4. 調査内容

調査対象者の性別、年齢、来日時期、居住地、日本語能力などの基本属性、学歴に関する事、職歴に関する事、家計状況に関する事、将来の見通しに関する事等について調査する予定です。

5. 調査の仕組み

調査は以下の流れによって行われる予定です。本調査は継続調査のため、毎年、新しく調査対象者を募集すると同時に、引き続き継続調査への協力を承諾された方については、翌年度以降も1年に1回程度、登録したメールアドレスへ調査票が送られます。

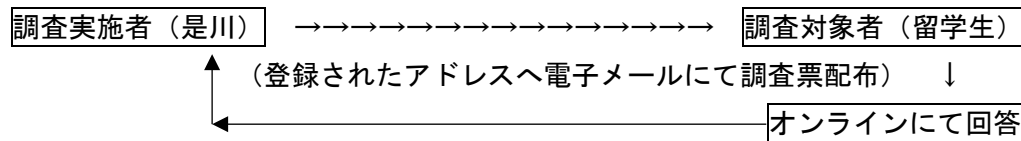
（調査の仕組み：1年目）



※1 調査対象となる日本語学校は法務省告示に掲載されているすべての日本語学校です。

※2 調査票は複数言語（5か国語）にて作成されます（日本語、英語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語）。

(調査の仕組み：2年目以降)



- ※ 2年目以降は調査実施者より直接、各調査対象宛に調査票が送られます。
- ※ 2年目以降にも、並行して1年目と同様の方法にて新規の調査対象者を募集します。

6. プライバシー・個人情報の保護について

本調査の回答はすべて学術研究のためだけに用いられ、それ以外の目的のために使用することはありません。また、調査内容の公表に当たっては、回答者や回答者の所属する日本語学校が特定されるような内容は一切含みません。なお、回答はすべてSSLにて保護されたオンライン上にて行われ、途中、第三者の手を経ることなく、直接、調査実施責任者のところへ届くため、漏洩の心配はありません。

7. 調査実施者について

以下を参照（社人研ホームページ）

<http://www.ipss.go.jp/pr-ad/j/soshiki/kozin/korekawa.html>

<https://researchmap.jp/korekaway/>